

高齢者もらくらくスマートフォン

地域での無料体験講座を上手に活用

NPO法人パオッコ

「離れて暮らす親のケアを考える会」

太田差恵子

各自自治体では住民が住み慣れた地域でいきいきと暮らしているようにさまざまな講座を企画・実施しています。友達づくりであったり、新たなライフワークやネットワークの発見を目指すものであったり。私自身も仕事をするようになってきたきっかけは、数十年前に暮らしていた自治体が開いた再就職セミナーでした。地域で開かれる講座というのは、手軽に通えるというメリットがあります。費用が無料、もしくはかなり低く抑えられていることも魅力です。

高齢化の進む社会で、シニア

向けの講座も各地で開かれています。健康関連のほか、絵手紙・

ツールペイントなど芸術関連が定番でしょうか。そんななか、パソコンなどIT関連の講座を見かけることが増えてきました。パオッコの会員の親御さんにもパソコンや携帯電話のメール機能を活用し、離れて暮らす家族と交流するケースがとも増えています。物理的な距離を埋める手段として有効です。課題は、親世代が機器類に馴染めるかどうか。年代が上がるに従い、ハードルは高くなっていく傾向にあります。

●文京区のスマホ教室

今回、パオッコの拠点でもある東京都文京区で「はじめてのスマートフォン教室」が開かれるというので、取材してきました。文京区区民課による「ふれあいサロン事業」という位置づけです。

まだまだシニア世代は、一般的な携帯電話を使っているイメージですが、急速にスマホが普及しはじめています。

MMMD研究所（モバイルマーケティングデータ研究所）の調査によると、60歳以上のシニア

世代の昨年12月の保有率は16.8%（同年8月より5.7%アップ）。シニア世代はITに関心が低いと考えがちですが、そうとも言えないでしょう。実際、パオッコの会員にも80代の親からスマホの使い方教えてほしいと言われたものの、自身が使っていないかったため慌てたという声を聞いたこともあります。

取材した講座は対象を高齢者に限定したものではありませんが、平日の日中ということもあり、大方がシニア世代でした。人気は高く定員10人のところ、2倍以上の申し込みがあり急きよ15人（女性11・男性4）に。講義は2時間半で無料です。

最初に参加者全員にスマートフォンとテキストが配布されました。DOCOMOのシニア向けのスマホです。講師は、高齢者のパソコン・携帯電話などの講習会を都内や近隣各地で開催するNPO法人竹箒の会（東京都文京区）のスタッフ。

15人の参加者に4名で対応。



絵・いしだみな / (株)カトウプロ

「ケータイとスマホの違いは？」から始まり、スマホの基本操作を学びます。

この日の参加者のほとんどは携帯電話を利用しており、スマホへの移行を検討中のようにしたのは1人だけ。隣に座った参加者とペアになって、実際に電話

をかけたリメールを送受信したり、さらに写真も撮影します。

利用料金についての説明も行われます。例えば、写真を送信する場合に、双方に課金されるという説明では、「子供や孫が、しょっちゅう写真を送ってきてくれるけれど、私にも料金が掛かっているなら、喜んでばかりいられないわね(笑)」と、女性が発言。それに対しては「パケット定額制」の説明が行われました。

私自身もスマホを持つてから1年になりますが、未だ分からないことがいっぱいあります。参加者からこんな質問も出ました。

「アプリってなんですか」
若者なら訳す必要のない単語が、高齢者には使用へのハードルとなることもあります。

●操作の度に教室に笑顔があふれる

スマホでメール交換をしたり、撮影した写真を送信したり、操

作をするたびに会場に笑顔があふれます。簡単にテレビを見られることが分かったときにはあちこちで「テレビも無料で見られるんですか」と感激の声が。

この日の講師、竹箒の会副理事長の橋詰信子さんは、「70代、80代の受講者も多いです。スマホは画面でのダイレクトな操作なので、ご高齢の方にも理解しやすいようです。スマホによって、出かけていなくても、さまざまな情報を手に入れたことができそうです。楽しみながら世界を拡げていただけるのではないかと思います」とこころ。

講座を受講していた女性のひとり「普段なら恥ずかしくて聞けないようなことも、丁寧に教えてくださったのでとてもよく分かりました」と満足そうなようす。家族に聞くと「そんなことも分からないの」と言われてしまいうで、スマホを使ってみたくても手を出せない高齢者も多いのかもしれない。

家族間で教え合うことも方法ですが、遠慮がないために口喧嘩に発展しがち。地域の同世代の人々とゆっくり学ぶ機会は、楽しく有益なひとときとなっているようです。

* * *
文京区のふれあいサロンでは地域の方を対象に「指先でできるインターネット講座」としてタブレットを使っている講座やデジタルカメラ教室も開かれています。

さらに、申込み不要の「高齢者のためのパソコンワンポイントアドバイス」も実施。パソコン操作での疑問に個別で講師が答えます。今回取材した汐見地域活動センターでは、毎週月曜日(水曜日)の日中に行われており、リピーターも多いそうです。

IT関連講座を実施する自治体が増えていて、高齢の親の身近でも開かれていないか確認してみませんか。世界が広がるかもしれません。